

令和7年11月11日

守谷市議会議長 殿

委員長： 渡辺 大士 印

報告者： 滝川 竜雅 印

都市経済常任委員会 観察・研修報告

標記の件について、次のとおり実施したので報告します。

観察・研修日	令和6年11月7日（金）	
観察・研修場所	大阪府 河内長野市 河内長野市役所	
観察・研修項目	自治会向け交流アプリ「いちのいち」について	
参加者	守谷市側	守谷市議会：渡辺大士、首藤太亮、寺田文彦 高梨隆、滝川竜雅、永盛いずみ 守谷市役所：生活経済部長 鈴木規純 議会事務局：岩地 祐子
	相手側	河内長野市役所：市民に寄り添う部 市民窓口課 課長 松原 徹 自治振興G グループ長 三宅麻衣 自治振興G 副主査 小池香菜
観察・研修目的	自治会DX導入によるメリット・デメリットとその効果について。	
観察・研修内容	自治会向け交流アプリ「いちのいち」の活用。	
観察・研修総括 (今後の取組み等)	自治会DX導入により、事務負担の軽減や情報共有の迅速化、防災情報の伝達や地域イベントの集客などの様々な利点について十分に学んだが、自治会アプリ導入による様々な課題についてもまた、十分に考え、協議する必要がある。	

視察・研修内容

●大阪府 河内長野市 概要

面積 : 109.6k m²

人口 : 96,765 人

世帯数 : 47,551 世帯

人口密度 : 867 人/k m²

■地域課題

◆自治会を取り巻く環境の変化…

少子高齢化・人口減少、

ライフスタイルの多様化、災害リスクの高まり

→社会の大きな変化に応じて自治会の運用も変えていく必要がある

■地域活動のデジタル化への期待

◆期待される効果…

自治会活動の効率化・負担軽減、

若い世代の地域活動への参加促進

情報共有の迅速化

○河内長野市の自治会がかかえる課題とデジタル化

【課題】

役員の高齢化、役員の担い手不足、加入率の低下

→課題解決の一助としてデジタル化に期待！

令和5年度総務省

「地域活動のデジタル化実証事業」へ参加

◆事業で採用された地域交流アプリ…

「いちのいち」(小田急電鉄株式会社 提供)

■効果検証

◆アプリの登録マニュアルの展開

サポート窓口の開設

自治会内の独自のアンケート実施

デジタル委員会の立ち上げ

電子のみで紙回覧板を不用とする世帯は回覧板を飛ばす

■効果検証

◆デジタル化に対する課題

登録者を増やすこと

→登録のサポート支援が必要

電子回覧板のメリットを感じるまでには時間がかかる

→紙の回覧板との効率的な併用が必要

1人から少数で運用しており、運用負担の集中

役員交代により、デジタル化の推進に影響が出る

→協力者として理解してともに推進してくれる人を増やすことが必要

様々な自治会専用アプリやデジタルシステムがあるが、地域に適合したものを見つけるのが難しい

→情報提供と相談体制が必要

●守谷市におけるデジタル化支援について、
自治会にあったデジタル化を模索・検討する必要がある。

- ・デジタル化への取組に対する情報提供
- ・継続して利用できるような費用面での支援
- ・デジタル化への意識の醸成